

## 大阪マラソンを取り巻く環境

### 【国内外の状況】

- ・ 大阪マラソン創設（2011年）以降、国内で多数の大規模市民マラソンが開催
  - ⇒ 定員割れの市民マラソンも見受けられる
- ・ 海外大会の動向
  - ⇒ 参加ランナー：4～5万人超
  - 年間を通した多様なプログラム（10km、ハーフマラソンなど）
- ・ 東京マラソン（参加ランナー：約3万8千人）は、2010年に財団法人化

### 【大阪マラソンの経過等】

- ・ 第9回大会（2019年）から、セントラルフィニッシュにコース変更  
（ゴール地点：インテックス大阪 ⇒ 大阪城公園）
- ・ 第10回大会（2022年）から、びわこ毎日マラソンと統合
- ・ 第10回大会（2022年）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一般ランナー部門を中止
- ・ エントリー数の減少  
（最大15.5万人 ⇒ コロナ前12.1万人、コロナ後4.5万人）
- ・ 大会運営や決算等が単年度で完結（財産の積立や運営ノウハウの蓄積が困難）